

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「県伊祭」準備が**スタート!**ところで…県伊祭の「**ゴール**」は?～

県立伊丹高校1学期最大の行事「県伊祭」の準備が本格的にスタートします。

「**スタート**」するということは・・・当然・・・「**ゴール**」に向けて・・・ということですよ。

では「県伊祭」の「**ゴール**」って何ですか?・・・県伊祭の「**ゴール**」とは・・・実は・・・**決まっています**。……………そして・・・毎年先輩たちは・・・その「**ゴール**」にたどりついています。

「**ゴールは決まっている**」ということは、後は・・・これから準備や練習の途中で起こる、上手くいかないこと、問題など・・・**全ては、ゴールを感動的なものにするための過程(プロセス)になります**。例えば・・・

「ある国に、それはそれは美しいお姫様がいました。そして、同じくイケメンの王子様がいました。ふたりはパーティーで出会い一目惚れ。結婚して幸せに暮らしました。こんな感じで、お姫様が王子様と出会うラブストーリーでいきたいんですが、どうでしょう？」

「それ、まじめに言ってる? そんな映画つくったら、『金返せ』ってみんなブーイングだよ！」

「え、どうしてですか？」

「当たり前じゃん。映画を見にいて、ふたりはすぐに恋に落ちて、結婚して子どもも生まれて幸せに暮らしましたって映画だったら、それ面白い？」

「確かに『**金返せ!**』ですね」

「**映画を面白くするには、困難が欠かせないんだよ**。お姫様のお母さんがめっちゃめっちゃワルとか、それくらいの設定にしないと話が盛り上がらないよ。お母さんは自分が世界で一番美しいとっていて、娘の美しさに嫉妬しちゃうとか」

「ひどいお母さんじゃないですか」

「ひどいほど話は面白くなるんだって。鏡に向かって、『世界で一番美しいのは誰?』って聞いているようなお母さんが出てきたら先が見たくなるでしょ？」

「確かに、ハラハラしてきますね」

「で、『一番美しいのは、王妃のあなたです』ってずっと鏡は答えてくれてたんだけど、娘が7歳くらいになったときに、『一番美しいのは、あなたの娘です』って。それで、お母さんは豹変しちゃうの。自分より美しかった娘に嫉妬して殺そうとする。」

「こ、こ、こ、こ、こ、ころ、ころ、ころ、ころ、ころ、ころ、ころし、ころし、ころし……………殺しちゃうんですか!？」

「そう、そう。毒を仕込んだリンゴを娘に食べさせて、娘を息絶えさせるという展開はどう？」

「い、い、いき、いき、いきた、いきた…息絶えちゃっていいんですか、主人公が？」

「うん。死んでから、生き返るくらいがやっぱ盛り上がるでしょ」

「確かにそうですけど…………。ところで、王子様と娘はいつ結ばれるんですか？」

「**最後だよ、最後**。いきなり主人公がハッピーな映画って、逆に見る人には悲劇だよ。ハッピーは困難のあとにくるから、盛り上がるの。『物語の鉄則』だね。間違いない。タイトルは『白雪姫』なんてのはどう？」



「結局、おもしろい人生の作り方って、主人公をどこまでっていうくらい困難にぶち当てて、どうやって、そこから立ち直っていけるかって考えることなんですかね？」

「そうだよ。人生の前半戦は、どこまで困難になれるかってゲームなんだ。困難になるほどにポイントをゲットできるゲーム。そして人生の後半は、そこからどうやって復活するかってゲームに切り替わる。そうすると盛り上がるんだよ。飽きないんだよ。面白いんだよ。」

「ほぼすべての映画はそうように構成されていると言っていい」

ひすい ことろう さんのブログより

どうでしたか?・・・**県伊祭の「ゴール」**は・・・決まりましたか?

決まったなら・・・後はどんな問題や困難がやってきても・・・そう!**大丈夫! 前を向いて進んでいこう**